

平成26年度

## 胸部画像精度管理研究会に参加して

公益財団法人埼玉県健康づくり事業団

事業部 放射線課 山岸 俊之



### はじめに

平成26年12月18日（木）と19日（金）の2日間にわたり、結核研究所において胸部画像精度管理研究会が開催されました。

結核予防会本部・各支部の医師17名，診療放射線技師63名，フィルム・モニターメーカーから17名，事務局4名による，デジタル画像と間接フィルムの評価を実施しました。また，今年度から直接撮影フィルムの評価を廃止するとともに，デジタル画像をモニターで評価し，装い新たに開催する運びとなりました。

講演では，コニカミノルタ株式会社の竹内浩美氏から「デジタルにおける画像処理」，株式会社東陽テクニカの小林直樹氏から「医用画像モニターの精度管理」についての講義，公益財団法人結核予防会 竹下隆夫氏による「診療放射線技師法の改正について」の講演が行われ，技師にとって重要な密度の濃い内容でした。

### 胸部画像評価について

結核研究所対策支援部放射線学科の星野科長より，評価基準について下記のとおり説明がありました。

評価基準は写真濃度，コントラスト，鮮鋭度等を中心にデジタル画像は7項目，間接撮影フィルムは

10項目についてそれぞれ評価し，判定の優れたものから順にA，B，C上，C中，C下の評価とし，読影の極めて困難なものはD評価，全く読影できない画像はE評価としました。評価は班長の医師が進行役となり，6班に分かれそれぞれフィルムおよび画像を評価し，評価にあたっては，各班の評価のバラツキをなくすため，予め用意されたフィルムを全ての班で評価し，基準を明確にする「目合わせ」を行いました。

### 評価結果

#### ① デジタル画像

平成26年（暫定） 169枚中，A評価 22画像（13%）  
B評価 71画像（42%） C上評価 62画像（36.7%）  
全体の91.7%

#### ② 間接撮影フィルム

平成26年（暫定） 72本中，A評価 16本（22.2%）  
B評価 24本（33.3%） C上評価 29本（40.3%）  
全体の95.8%

デジタル画像評価の合格基準である「A，B，C上」は91.7%，間接撮影で95.8%を占めており結核予防会のフィルムは読影価値が高く，精度管理も行き届いていると思われます。

### おわりに

今後，胸部エックス線健診がアナログ（直接・間接撮影）からデジタル画像に移行する中，デジタル画像の画質向上が今後さらに求められると思います。それには，メーカーの技術によることも大きいとは思いますが，診断画像が出現した時からずっと精度管理を担ってきた私たち診療放射線技師が，これからも精度管理を主導していかなければならないと思います。

最後になりましたが，この研究会に携わって頂きました講師の先生方，結核研究所の先生方及び研究会担当の皆様，そして参加者の皆様方にお世話になりましたことを深く感謝申し上げます。



グループ討論の様子